No．49　2026年 11月 1 日

聖徒の日・永眠者記念礼拝

説　教	『 共 に 喜 ぶ 』
	吉 丸 初 美 師
司 会	吉 丸 初 美 さん
奏 楽	白 石 百 合 子さん
招 詞	マタイ福音書 22章18～21節
主 の 祈	（ 5 6 4 ）
讃 詠	5　4　6
交 読 詩 編	1 4 3 編 1~1 1
祈 祷	
讃 美 歌	21 － 4　7　0
使 徒 信 条	
聖 書	ピリピ人への手紙 2章1～18節
説 教	（口語訳309頁 新共同訳 363頁）
	『 共 に 喜 ぶ 』
祈 祷	
瞑 想	（ 永眠された方を覚えて）
讃 美 歌	21 － 3　9　3
聖 餐 式	21 — 8　1
献 金	
感 謝	
報 告	
頌 栄	5　4　3
祝 祷 / 後 奏	

次 週 の 礼 拝（終末前々主日 礼 拝）

説 教	『 真 の 幸 い 』
	ル カ 福 音 書 15章 11 ～32節
招 詞	コロサイ人への手紙 2章13節
交読詩編	詩 編 4　4
讃美歌	546、21－451、21－240、544

礼 拝 当 番

今週	1 日	司会	吉 丸 初 美 さん
次週	8 日	司会	吉 丸 初 美 さん

会 堂 清 掃 奉 仕

本　日　の　集　会

★教 会 学 校　午前9時45分

★コーヒータイム　礼拝後～

密に注意し、それぞれの思いを語り合いましょう。

★11月定例教会役員会 コーヒータイム後
教務・教勢報告、会計報告、12月のクリスマス祝会等
役員の働きと健康をお祈り下さい。

今週の集会/スケジュール

§清鈴園礼拝奉仕 11月4日(水) 10時30分～
吉丸師が奉仕されます

❁めぐみ幼稚園礼拝11月6日（金)10時30分～

次週以降のスケジュール等

★第三回食事会 11月8日(日) 12時～14時
ホットプレートとタコ焼き型でピザを作ります
参加をお待ちしております。

§広島キリスト教社会館バザー 11月8日(日)10時～

★西中国教区教師研修会 11月9日(月)15時～
11月10日(火)12時 会場：山口周陽教会

❁めぐみ幼稚園礼拝 11月13日(金) 10時30分～

●レコードコンサート 11月15日(日)13時～15時30分
チャイコフスキー ピアノ三重曲 イ短調
《ある偉大な芸術家の思い出のために》
交響曲 第6番 ロ短調 《悲愴》 作品 74

§広島拘置所教誨奉仕 11月18日(水)13時30分～
施設にある方の信仰生活を覚えてお祈り下さい。

❁めぐみ幼稚園作品展 11月21日(土)10時～12時
13時～14時

★広島西分区交換講壇 11月22日(日) 10時30分～
今年は広島観音町教会の塩見和樹牧師が説教を担当してくださいます。吉丸師は広島観音町教会で奉仕されます。

先週の集会	男	女	計
教会学校	0	0	0
主日礼拝	1	3	4
聖書を読む会	2	2	4

◈今週の説教要旨（聖徒の日・永眠者記念礼拝）

『共に喜ぶ』ピリピ人への手紙 2章1～18節

先日幼稚園でハロウィンをしました。ハロウィンは万聖節(11月1日)の前夜祭で、古代ケルトを起源とする秋の収穫を祝い悪霊を追い出す祭りです。日本基督教団では11月第一主日を聖徒の日・永眠者記念礼拝として守り、教会にかつて関わり、天にある方々、あるいは関係のあった方方を覚えます。そして、彼らが歩まれた道、生きられた道に思いを馳せます。教会成立、再建、教会維持と厳しい状況の中で、想像を絶する苦難と思える道をひたすら感謝と喜びを以て歩まれた信仰に倣いたいと思います。パウロ最初の伝道地であるピリピの教会は、裕福な信徒たちを中心とし最初の基礎が成立しました。しかし、パウロが去った後教会内外に問題が起き信徒たちは狼狽したのです。キリストを信じることだけではなく、キリストのために苦しむことも神からの賜物であるということを、彼らに悟らせるためパウロは勧告の手紙を記しました。当時彼自身は獄中にあって死をも覚悟していましたが、それを悲観せずキリストと同じ苦しみを体験できるのは、神からいただいた素晴らしい恵みなのだと肯定的にとらえ、死ぬことさえ喜びといいます。困難な状況の中で冷静に正しく判断し、道を外れず最後まで救いの達成に努めるには、神の子キリストのこの世での人としての十字架までの歩み、その圧倒的なキリストの姿をパウロは提示し彼らの生き方の根本を変革しようとしました。しかし、当時「十字架につけられたイエスこそが主（キリスト）である」と告白することは、社会的孤立や迫害を意味していました。そうした状況の中で信徒たちが一致して歩むには、苦しむことを恵みとして受け取り愛によって一致する必要があったのです。。感謝して受け取ると、へりくだり、謙虚で従順な心が神の働きかけによって、育まれていきます。パウロにとって生きることはキリストであり、死ぬことは益でした。そして、死ぬことは終わりや絶望ではなく、肉体の限界から解放され、直ちにキリストと深く完全に結ばれる喜びの移行ですから喜ぶことでした。キリストのために苦しむ者でありたい…と思います。